

岐 阜 県 の 魅 力 発 信 ・ 向 上 対 策 特 別 委 員 会 記 録		
1 会議の日時	令和 7 年 5 月 1 2 日 開 会 午前 9 時 5 8 分 閉 会 午前 1 1 時 0 5 分	
2 会議の場所	第 6 委員会室	
3 出席者	委 員	委員長 岩井 豊太郎 副委員長 水野 正敏 森 正弘 水野 吉近 国枝 慎太郎 酒向 薫 若井 敦子 今井 政嘉 牧田 秀憲 判治 康信 今井 瑠々
	執 行 部	別紙配席図のとおり
4 事務局職員	課長補佐兼係長 水野 智裕 主査 脇若 知香子	

5 会議に付した案件		
件名		審 査 の 結 果
1 令和7年度重点調査項目等について		原案了承
2 令和7年度所管事務事業の説明聴取について		
3 令和7年度委員会活動について		正副委員長一任
4 その他		

## 6 議 事 録 （要点筆記）

### ○岩井豊太郎委員長

ただいまから、岐阜県の魅力発信・向上対策特別委員会を開会する。

最初に、当委員会の運営についてであるが、委員会が所管する特定分野の中から、テーマを絞り込んだ上で、正副委員長の主導のもと、調査検討し、2年を目途に委員会として一定の提言を行うことを目指すものであり、委員には積極的な審議をお願いする。

まず初めに、当委員会の「令和7年度重点調査項目について」であるが、5月8日に開催された正副委員長会議において、配付資料のとおり、「岐阜県の魅力発信・向上対策の推進に関すること」と決定されたので承知されたい。

また、本年度の具体的な調査項目については、配付資料のとおり、「観光、文化及びスポーツを通じた魅力発信について」、「県外から人の流入を促進するための産業振興について」及び「魅力あふれるまちづくりについてについて」、参考人招致や先進地視察を積極的に行い、調査していきたいと思うがどうか。

（「異議なし」の発言あり）

### ○岩井豊太郎委員長

意見もないようなので、案のとおり調査していくことに決定した。

それでは、重点調査項目を踏まえ、調査項目に係る所管事務事業について、執行部より説明願う。また、執行部の紹介も併せてお願いする。

（渡辺 観光文化スポーツ部長 挨拶・執行部紹介）

（青木 観光文化スポーツ部次長 執行部説明）

### ○岩井豊太郎委員長

ただいまの説明に対して、質疑はないか。

### ○水野吉近委員

木曽三川サイクルツーリズムの推進について、事業立ち上げの経緯やニーズは。

### ○細川観光資源活用課長

元々、木曽川沿いにサイクリングロードが整備された箇所があることや、県土整備部で自転車活用推進計画が策定されたこと、また、サイクルツーリズムとして、しまなみ海道サイクリングロード（広島県・愛媛県）やビワイチ（滋賀県）などで経済効果、誘客効果が出ていることから、本県でも県内への誘客促進を目的に立ち上げた。

### ○水野吉近委員

起点となる集合場所の確保、エイドステーションの整備など、利用する方の利便性を考慮して事業を進めていただきたい。

次に、「ぎふ若者定着奨学金返還支援制度」について、現在の活用状況はどうか。

### ○土田産業人材課長

制度に登録している企業が69社、学生等が49人となっている。令和7年4月から5社・7名が採用されている。

### ○水野吉近委員

企業側はどのように受け止めているか。課題はあるか。

### ○土田産業人材課長

制度を利用する企業からの評価は高いが、制度の周知が十分でないと考えている。より多くの企業、求職者に利用いただけるよう取り組みたい。

### ○水野吉近委員

この制度による支援（返還）はいつから始まるのか。

○土田産業人材課長

令和7年4月に採用され3年間継続して就業した後に、支援金を支給する。

○水野吉近委員

東海環状自動車道の全面開通を迎えるにあたり、県の交流人口の拡大に向けた中長期的な取組方針は。

○加藤観光誘客推進課長

関西圏等から県内観光地へのアクセスが良くなることから、本県にとって非常に重要な機会である。

本年度は、大阪・関西万博を生かして、万博来訪者をターゲットとした交通広告を実施する。今後は、年度毎にターゲットを定め、東西南北から人を引き込めるような誘客促進を図っていきたい。

○今井瑠々委員

令和7年度の強化指定選手・チームについて、高校生と少年クラブ以外の低年齢の子どもへの支援がないようであるが、小中学生に対する今年度の支援を教えていただきたい。

○林競技スポーツ課長

今年度の強化指定全体としては、団体36・個人90名を指定し、そのうち少年クラブを19指定しているところ。

○今井瑠々委員

県独自のプログラムを実施しているということであるが、内容は。

○林競技スポーツ課長

県独自のプログラムとしては、ジュニアアスリート育成プロジェクトを実施しており、今年度11年目を迎えている。小学5年生から中学3年生について、各学年から約25名を選考し、プログラムを実施している。様々な競技を体験してもらい、本人の適性に応じてパスウェイ（適正種目へ導く）し、高校以降の実施競技につなげるというもの。

○今井瑠々委員

小中学生の個人強化指定はしていないのか。

○林競技スポーツ課長

個人強化指定は基本的に高校生以上を対象としている。小中学生については、今後の競技実績等を踏まえて見極めていく。

○今井瑠々委員

県の強化指定を受けていないとスポーツ科学センターを利用できないという話も伺ったことがある。

また、県内には冬季のスキーやスケート競技など個人競技もあり、チームだけでなく個人競技選手へも支援するなど、選手への支援を充実させてほしい。

○林競技スポーツ課長

県では、冬季のスキーやスケート競技についても支援しているほか、アーバンスポーツなどの個人競技も広く支援している。他の個人競技についても引き続き支援していく。

○若井敦子委員

木曽三川サイクルツーリズムの推進について、しまなみ海道サイクリングロードやビワイチはナショナルサイクルルートに指定されているため、人気が高いと思うが、将来的に指定を視野に入れているのか。

○細川観光資源活用課長

ナショナルサイクルルートに指定されるには様々な要件があり、難しい部分はあるが、将来的な指定も考えていきたい。

○若井敦子委員

ナショナルサイクルルートに指定されれば世界中から注目されるので、ハードルが高いと思うが、ゼ

ひ目指していただきたい。

世界最高峰のスポーツドクターを招く取組とは。

○高口文化創造課芸術文化企画監

スポーツドクターを招いた講演会を6月26日にミナモホールで開催する予定。リアルマドリードのチーフメディカルアドバイザーである医師やハーバード大学の医学部教授を招き、スポーツ前の効果的な準備、睡眠の重要性等について講演いただくほか、県内企業の取組などの発表を予定している。

○牧田秀憲委員

D X推進に向けたデジタル人材の育成・確保について、具体的にどのように取り組むのか。

○桑原デジタル戦略推進課長

県民向けには、国家試験であるI Tパスポート試験の対策研修を行う。市町村向けには、個々の課題やニーズに応じたデジタル人材を派遣する伴走型支援のほか、市町村のD Xを底上げするための研修を実施する。

○牧田秀憲委員

県民向け研修の受講実績は。

○桑原デジタル戦略推進課長

令和5年度から実施しており、毎年約500名が受講している。

○牧田秀憲委員

小規模な町村においてデジタル人材の育成・確保は非常に厳しい状況であり、県による人材確保と育成支援は重要な取組みである。これまでの県の支援によって、市町村をサポートできたことが分かる事例はあるか。

○桑原デジタル戦略推進課長

令和6年度から市町村D X人材支援事業を実施している。情報部門の職員が少人数で、何から始めてよいかわからないという町村もあり、「デジタル人材の派遣が非常に助かった」という声もいただいている。

○牧田秀憲委員

デジタル分野において、例えば（取組が先行している）美濃加茂市が中心となって加茂郡の町村と連携するなど、県から指導していただけると各町村もありがたいのではないかと思います。引き続きお願いしたい。

○桑原デジタル戦略推進課長

市町村の意見やニーズをしっかりと聞き、個々のニーズに合った支援をすることを重視している。今年度も丁寧に意見を聞きながら進めていく。

○国枝慎太郎委員

清流ハーフマラソンについて、今年度の出場者数は。また、出場者の声は把握しているか。

○塚腰地域スポーツ課長

エントリーは10,020人、出場者は9,014人。出場者の声としては、沿道の声援が多かったことや、招待選手との交流があったことなど、良い意見をいただいている。

○国枝慎太郎委員

一方で、悪い意見も聞いているため、今後に向けて検証していただきたい。また、岐阜県にはフルマラソンがない。フルマラソンを実施しようとする市町村に対する県の支援は考えているか。

○塚腰地域スポーツ課長

フルマラソンについては市町村の意見を伺いながら、必要に応じて部内で検討していきたい。

○国枝慎太郎委員

関ヶ原古戦場について、関ヶ原町だけでなく、関ヶ原の戦いにゆかりのある地域を含めた広域的な周

遊ルートを検討しているか。

○堀観光資源活用課関ヶ原古戦場活用推進室長

関ヶ原を核とした広域周遊については、人気ゲームとコラボしたデジタルスタンプラリーや、広域周遊ツアーの造成などを考えている。

○細川観光資源活用課長

関ヶ原については、例えば、着地型観光として、ゆかりの地を巡るツアーなども考えている。また、戦国・武将観光にも取り組んでおり、岐阜城や苗木城など県内各地を巡る周遊滞在型観光も、関ヶ原を核として進めていきたい。

○国枝慎太郎委員

学校の統廃合が進む中、教育委員会と連携して、県内の小中学校、高校の魅力を発信していくことも重要と考える。

○酒向薫委員

部活動がクラブ活動に移行することにより、少子化が進んでいる地域では受け入れ団体が不足し、スポーツができなくなる可能性があるが、県の考えは。

○塚腰地域スポーツ課長

知事部局としては、部活動の受け皿にもなる総合型地域スポーツクラブを現状の53から増やしていこうと考えている。部活動を存続していくか、地域移行していくかは市町村が検討するものと考えている。

○酒向薫委員

部活動をどのようにしていくかは市町村が考えることと県教育長は言っていたが、受け皿を県が推進するとはどういうことか。

○青木観光文化スポーツ部次長

県としては、総合型地域スポーツクラブを通じて、多様なスポーツを楽しんでいただく環境を整えているところ。

○酒向薫委員

高校授業料の無償化により私立高校の魅力が増してきており、反対に県立高校との格差が大きくなる。この委員会ではないかもしれないが、市町村だけの問題と捉えず、難しいと思うが、しっかりと対策を行っていただきたい。

○青木観光文化スポーツ部次長

教育委員会と問題意識を共有しながら取り組んでいく。

○判治康信委員

「伝統的工芸品産業支援補助金」の助成率及び上限は。

○小林地域産業課長

メニューごとに異なり、工房設置支援事業、作業集約化・内製化支援事業は補助率1／2、上限100万円。認知度向上支援事業、生産道具等整備支援事業は補助率1／3、上限50万円としている。

○判治康信委員

申請は組合からのみか、個人事業主も申請可能か。

○小林地域産業課長

メニューによるが、指定産地組合の構成員であれば個人事業主も申請は可能。

○今井政嘉委員

新たにアートプロジェクトの開催に向けて取り組む市町村の支援とは、どのようなイメージのものか。

○松岡文化創造課文化交流推進監

昨年度、下呂市で開催した南飛騨のアートプロジェクトといった、アートを活用して地域活性化を図る取組に対して支援する事業。

○今井政嘉委員

手挙げ方式で他の市町村も支援を受けられるのか、「南飛騨 Art Discovery」の後継を想定しているのか、どちらか。

○松岡文化創造課文化交流推進監

アートを活用した事業ということで、昨年度開催した「南飛騨 Art Discovery」の後継を含め、それ以外にアートを活用して地域活性化を図る市町村に対しても支援したいと考えている。

○岩井豊太郎委員長

質疑も尽きたようなので、これをもって所管事務事業の説明聴取を終わる。

次に、「令和7年度委員会活動について」であるが、特別委員会の視察については、配付した「委員会視察要領」、「委員会視察に関する申し合わせ事項」のとおりである。

視察先等については、必要性を十分に勘案し、委員をはじめ、関係者と調整の上、決定していきたいと思う。詳細については、正副委員長に一任願いたい、これに異議はないか。

(「異議なし」の発言あり)

○岩井豊太郎委員長

異議がないので、正副委員長に一任と決定した。

以上で、本日の議題は終了したが、この際、何か意見等はないか。

御意見もないので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

岐阜県の魅力発信・向上対策特別委員会 配席図

令和7年5月12日

第6委員会室

